

日赤を表す
何の特色もない
日赤の意識の低下

診断書

氏名 M 様

生年月日 1949/12/21 生

病名 受動喫煙症 レベル III, 咳、痰、不整脈、

上記の症状が休憩室でタバコの煙に接するたびに出現し、タバコの煙の無いところでは全く症状が起こらない。

これは受動喫煙症である。タバコの煙に遭遇すると不整脈が出て、時には止まる様に感じることもある。

聞くとところによれば休憩室と喫煙室はビニールだけで仕切られているようで、これではタバコの煙を防ぐことは不可能である。善処が必要と思われる。

上記のとおり診断いたします。

令和元年 07 月 17 日

東京都渋谷区広尾 4 丁目 1 番 2 2 号
日本赤十字社医療センター
電話 03 (3400) 1311 番

医師 作田 学

(印)

原告ろろに

書いたほうりは

「決めつけ度」が

薄れている。

多少注意したのか。

だがまだにも要請している。「診断」の域をこえている

あれだけ「ユニクロ」の衣服の繊維を訴えていたにも関わらず!

これは作田氏が2回自ら念押しをしたにすぎず。M氏はその意味すら気づいていない。よって同意も認めない。